

## 論文要約

バブル崩壊以降、日本の経済は低迷し、国際的な科学技術競争力も低下してきたといわれてきた。それに対して、日本の経済の活性化と国際的な科学技術競争力の向上のためには、産学官連携を推進する施策が次々に打ち出されている。結果として、産業界との連携の接点となる共同研究センターや、技術移転機関(TLO)、大学発ベンチャーが各大学においてこれまで以上に設置されるようになり、各大学での産学官連携の事業は活発になってきた。現在では、それぞれの大学での産学官連携の基盤が整備され、各大学が独自の戦略をとりつつある。

本論文では、産学官連携の定義から始め、知識を創出する大学は知識を活用する産業界とどのように連携しているのかや日本における産学官連携の推進の詳細な背景はなにかを考察するとともに産学官連携の実態に焦点をあて、産学官連携は大学の競争力の強化をもたらすことができるかを探ることを目的とする。また、日本における産学官連携関連の環境整備及び施策、推進に向けた課題を探ることによって、台湾の今後の参考に資するものと考えられる。

